

一連の神事とともによく伝承されている渡り拍子

糸崎八幡神社・中山天神社の神事

指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	いとさきはちまんじんじゃ・なかやまてんじんしゃのしんじ
所在地	井原市芳井町西三原・東三原
指定年月日	昭和56年4月7日
解説	備中地方中・北部で多く行われていた「渡り拍子」が中心となった神事。(1)御湯立神事、(2)渡り拍子、(3)巫女舞、(4)御神幸からなっている。渡り拍子は、4人の「トビコ」という踊り子が、1組になってバチで太鼓を叩きながら飛ぶように踊るもので、地域によっては「楽(がく)打ち」「頭(かしら)打ち」ともいい、御神幸の供奉楽(くぶがく)。広く行われてきた渡り拍子のなかでも、特に両社では渡り拍子とともに他の一連の神事がよく伝承されている。
アクセス方法	【糸崎八幡宮】北辰バス高山行「三原」から徒歩5分 【中山天神社】北辰バス高山行「村入」から徒歩数分
公開状況	開催日:【糸崎八幡宮】11月第2土曜日の正午から 【中山天神社】11月第2日曜日の正午から
設備	【P】糸崎八幡宮＝境内に8台程度、中山天神社＝境内に6台程度 駐車場  トイレ 
備考	

きつずページ

していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	糸崎八幡神社・中山天神社の神事
よみかた	いとさきはちまんじんじゃ・なかやまてんじんしゃのしんじ
しょざいち (所在地)	井原市芳井町西三原・東三原
していしたひ (指定した日)	昭和56年4月7日
せつめい	「渡り拍子」(わたりびょうし)という踊(おど)りが中心となっているお祭りです。渡り拍子は、4人が1組になってバチで太鼓(たいこ)を叩(たた)きながら飛(と)ぶように踊ります。その後には巫女(みこ)の舞(ま)いや、おみこしなどもあり、昔ながらの一連(いちれん)の行事(ぎょうじ)がきちんと伝えられています。